

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 28 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会		主 査 名：梅宮 典子 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：岩田利枝 主 査 名：西名大作
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>感覚・知覚心理分野の多様な研究成果を学会内外に向けて発信する。</p> <p>(1) 建築環境工学の音・光・熱・空気等の各分野とその関連する分野の交流を図る。シンポジウムを開催し、テーマに沿った議論を深める。発表者、聴講者の研究推進に寄与するとともに、実社会へ活用できる知見の社会的な発信を図る。</p> <p>(2) 実験手法や評価法に関する研究会を開催する。初学者の研究推進に役立てるとともに、感覚・知覚心理分野の研究の裾野を広げる。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	<p>主査：梅宮典子(大阪市立大学)</p> <p>幹事：宮本征一(摂南大学)、原田昌幸(名古屋市立大学)</p> <p>委員：秋田剛(東京電機大学)、合掌頭(岐阜大学)、澤島智明(佐賀大学)、竹村明久(摂南大学)、竹原広実(京都ノートルダム女子大学)、土田義郎(金沢工業大学)、西名大作(広島大学)、原直也(関西大学)、松原斎樹(京都府立大学)、光田恵(大同大学)、森原崇(石川工業高等専門学校)、山中俊夫(大阪大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	新領域展望 WG ：若手研究者を中心に構成し、学会内外における研究動向を把握する		
2017 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	感覚・知覚心理小委員会：4 回 (年度内開催予定を含む) 新領域展望 WG：3 回 (年度内開催予定を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	第一回感覚・知覚心理シンポジウム「被験者を用いる研究の意義と限界」 2017 年 10 月 14 日開催、参加者数 41 名
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>シンポジウム開催は 1 回 (2017 年 10 月 14 日) であったが、当初の活動計画に対して十分な成果が得られた。</p> <p>1) シンポジウムでは熱・音・におい・複合評価・景観評価の各分野から、被験者を用いる研究の意義と限界について研究発表を行って、建築環境工学における異分野間の交流を進めた。</p> <p>2) シンポジウムでは学生をはじめとする若手研究者が多数参加して、活発な意見交換を行った。</p> <p>3) 新領域展望 WG では若手研究者を中心に次年度のシンポジウム開催に向けて、感覚・知覚心理研究に関する最新の研究ツールに関する有意義な情報交換を行った。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	シンポジウムでは企業等に所属する学会会員外の参加が少なかった。次年度の課題としたい。

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本委員会では、建築環境工学の音・光・熱・空気等の各分野とその関連する分野を横断的に俯瞰することを主たる活動内容としている。今年度から主査と幹事を交代し、引き続き、人間の感覚・知覚に対して心理学的手法を用いる研究成果に関わるシンポジウムを開催し、分野をまたがる研究交流を行っている。</p> <p>2017年度は、当委員会の主催として7月にシンポジウムを開催した。音・熱・におい・景観評価の各分野から被験者を用いる研究の意義と限界について発表して討論を行った。今回のシンポジウムは学生をはじめとして若い世代の参加が多く、活発で有意義な意見交換をおこなうことができた。よって委員会の活動目標である分野間の横断的交流の促進および感覚・知覚心理分野の研究の裾野の拡大の達成にむけて、成果をあげることができたと考えている。</p> <p>2018年度は2回のシンポジウムの開催を予定しており、テーマ設定など準備を進めている。一層の研究交流が期待できる。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。